

sandars により、なめくじの一種、*Agriolimax laevis* が中間宿主となる事が発見されて以来、各地で数種の陸産貝類や、なめくじが中間宿主となる事が知られている。演者らは琉球列島の西表島、石垣島および宮古島から採集した一種のなめくじが中間宿主となる事が知られている、演者らは琉球列島の西表島、石垣島および宮古島から採集した一種のなめくじ、および沖縄本島から得た、アフリカマイマイ *Achatina fulica* から digestion method により多数の、形態学的に広東住血線虫の幼虫に一致する感染幼虫を得た。更に、これらの幼虫をマウスに経口投与して4日後にマウスの脳より、多数の幼虫を得た。ラツテが手に入らなかった為に成虫を得る事ができなかったが、大多数がマウスの脳に移行していた事から、広東住血線虫の感染幼虫と考えて、まず間違いないと考えられる。採集したなめくじは、ハワイで普通な中間宿主である *Veronicella alte* に極めて似ている。このなめくじは、国立科学博物館、波部忠重博士により、アシヒダナメクジ *Laeuicaulis alte* と同定された。ハワイ産との異同については目下、検討中である。アシヒダナメクジは沖縄本島には分布していないらしく、沖縄ではアフリカマイマイが中間宿主となり、宮古、八重山ではアフリカマイマイ、アシヒダナメクジが中間宿主になると推定される。

その他の陸産貝類やなめくじも当然、中間宿主になる可能性があり、それについては目下研究中被る。

寄生虫学雑誌 第14巻第7号 1965年12月
(第18回日本寄生虫学会南日本支部大会記事特集)

具志頭村の糸状虫症について

琉球衛生研究所

国吉真英(外6名)

沖縄寄生虫予防協会

仲地紀良・屋嘉勇(外3名)

沖縄医師会主催第4回具志頭村無医地区診療団の糸状虫症調査班は、具志頭村の糸状虫症の浸淫状況をを知る目的で、同村の仲座、与座、安里、波名城の4ヶ部落の住民を対象に、仔虫の検索を行った。

検血は、10月1日4ヶ部落民を安里公民館に集め、午後9時以後耳朵より30mmを定量採血し、溶血後ギムザ染色を施し鏡検した。

検査人員557名中45名、8.1%に仔虫陽性者を得た。性別感染率は、男子245名中26名、10.6%、女子312名中19名、6.1%で男子は女子に比し種々高い感染率を示している。部落別感染率は、波名城15.6%が一番高く、次いで仲座12.9%、与座8.9%、安里5.8%の順に感染率が低くなっている。

糸状虫症調査成績

琉球衛生研究所
1966年10月1日調

第1表調査成績

調査地	調査人員			仔虫保有者			仔虫保有者			備考
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
具志頭村仲座	25	29	54	5	2	7	20.0	6.9	12.9	
" 与座	27	51	78	3	4	7	11.1	7.8	8.9	
" 安里	152	209	361	11	10	21	7.2	4.7	5.8	
" 坂名城	41	23	64	7	3	10	17.0	13.0	15.6	
計	245	312	557	26	19	45	10.6	6.1	8.1	

保有者の年齢分布は、第2表に表わす如く、5～9才及び70才以上の老人層を除く外、各年齢層に見られた。この事は、4ヶ部落に於いては、現在各年齢層に新感染が行われていることを物語っている。

ミクロフィラリヤ保有者の年齢分布

第2表

年齢別	調査人員			仔虫保有者			仔虫保有率			備考
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
0～4	10	17	27	1	0	1	10.0	0	3.7	
5～9	28	27	55	0	0	0	0	0	0	
10～14	75	71	146	7	3	10	9.3	4.2	6.8	
15～19	46	30	76	3	3	6	6.5	10.0	7.9	
20～29	21	37	58	2	1	3	9.5	2.7	5.2	
30～39	28	51	79	5	3	8	17.9	5.9	10.1	
40～49	15	34	49	3	6	9	20.0	17.6	18.4	
50～59	10	23	33	2	2	4	20.0	8.6	12.1	
60～69	7	16	23	3	1	4	42.9	6.3	17.4	
70～	5	6	11	0	0	0	0	0	0	
年齢不明										
計	245	312	557	26	19	45	10.6	6.1	8.1	

今回の疫学調査で判明した結果は、具志頭村では、本症の感染率が5.8～15.6%の間を示し、部落によってはかなり高率の浸淫を示している所がある。具志頭村では、沖縄本島の他の南部地区同様糸状虫症が広く村内各地に浸淫しているものと思われる。本症の予防対策としては、環境の整備、蚊族の駆除と相俟って、仔虫保有者については、スパトニ錠による集団駆虫がのぞましい。

なお、本調査は、琉球衛生研究所と沖縄寄生虫予防協会との共同調査の下に実施された。

琉球衛生研究所	国	吉	真	英
	平	識	善	保
	城	間	盛	吉
	外	間	善	次
	大	城	孝	喜
	徳	村	勝	昌
	岸	本	高	男

沖縄寄生虫予防協会	仲	地	紀	良
	屋	嘉		勇
	池	城		毅
	名	嘉良	弘	行
	新	城	慶	康

第4回無医地区巡回診療報告

(於具志頭村)

期 日：1966年10月1日・2日

沖縄医師会・琉球新報社